

*6月22日陰陽石関連史跡巡り実施 40名 *6月23日磐座シンポジウム開催 62名

あかいわ美土里の和

活動の目的

私たちは「里山づくり」活動の中で発見された陰陽石によって、新しい歴史感を見出し、私たちが今暮らしているこの地域の人々の融和のシンボルとして老若男女が挙って親しんでくれることを願っている。長年に渡りこの磐山の峰に座し続けている陰陽石に興味を示し、古代の人たちの暮らしぶりに思いをはせ赤磐市の奥深さを知り郷土愛を深めることを目的とする。同時に、自然災害の多発する現在にあって文化的な生活の中で自然と共生できる暮らし方を身に付けることの一助にすることを目的としている。

活動の内容及び経過

※「里山づくり」活動の中で発見された陰陽石が、今後の研究によって新しい歴史が見つかるかもしれないとの期待を持って、全国的な組織「イワクラ学会」理事平津豊氏と国指定史跡熊山遺跡を長年研究している「熊山遺跡研究会」事務局長津曲真人氏の協力を得て「あかいわ磐座シンポジウム」と陰陽石に沈む夏至の夕日の検証を計画した。

※6月12日、安全に検証できるよう事前に陰陽石周辺及び登山道を草刈り、切り株切り戻し作業を行った。

※石蓮寺、両宮山古墳、熊山遺跡を結ぶと2等辺三角形になり、陰陽石はそのほぼ中心に位置することから、関連を検証する為に6月22日（土）史跡巡りを実施した。マイクロバス2台（定員40名、内県外23名、県内（赤磐市外）12名）で津曲氏の案内で検証した。最後に陰陽石のスリットに沈む夏至の夕日を確認した。

※6月23日「赤磐市『磐山』で発見された夏至の夕日（冬至の日の出）が差し込む陰陽石を考える」磐座シンポジウムを開催した。4氏の基調講演（基調講演1「岡山の磐座」講師佐藤光範氏、基調講演2「イワクラとは何か？」講師平津豊氏、基調講演3「世界の巨石信仰」講師須田郡司氏、基調講演4「磐山の陰陽石について」講師南裕三氏）があり、磐座、巨石信仰についての報告があった。

※講演の後、パネルディスカッション（文化ジャーナリストの下山宏昭氏がコーディネーター、講演者4名がパネラー）を実施、参加者の質問を交えて、演題の内容を深めた。

活動の成果・効果

①期待通り県外並びに赤磐市外からの参加者が3分の2を占め関心の高さを実感した。赤磐市観光協会、磐市観光課の積極的な後押しがあり、参加者の評価も良く今後の観光資源としての価値を見出すきっかけになると確信した。



- ②津曲真人氏案内の熊山遺跡、両宮山古墳巡りは陰陽石との関係を説くヒントになった。
- ③雨の予報だったが磐山の陰陽石についた時には西の空の雲が晴れて陰陽石のスリットに夕日が沈む情景を見ることができ陰陽石の信ぴょう性を実証した。
- ④陰陽石の感動はシンポジウムを盛り上げ、充実した討論が陰陽石の評価を高めた。
- ⑤赤磐市観光協会会長、赤磐市商工会会長がシンポジウムに参加した席で、講師をはじめ参加者の多くが陰陽石の価値を評価したことは今後の活動に大いに役立つ効果がある。

今後の課題と問題点

- ①「赤磐市民が長年に渡りこの磐山の峰に座し続けている陰陽石に興味を示し、古代の人たちの暮らしぶりに思いをはせ赤磐市の奥深さを知り郷土愛を深めることを願って開催する。」との目標が赤磐市民の参加の数から見ると十分に達成できなかったという課題が残った。
- ②市外からの参加が多い分「マニアック」な講演会になった傾向があったことが問題点としてあげられる。

●代表者：白石齊 ●所在地：赤磐市下仁保
●TEL：090-4571-7290 ●E-MAIL：midori01@carrot.ocn.ne.jp
●URL：http://midorinowa.weebly.com
●設立年：2011年 ●メンバー数：50名